

図1 コルチ器のdissection (Thalman et al.<sup>2,3)</sup>を一部改変)

OL: Outer Layer, IL: Inner Layer, OHC: Outer hair cells Layer, DE: Deiter cells Layer, HE: Hensen cells Layer, IHC: Inner hair cells Layer

A; コルチ器から支持細胞の一つHEを分離し、外有毛細胞と柱細胞とを分離しているところ。

B; 内毛細胞と柱細胞とを分離しているところ。

C; 支持細胞の一つDEと外有毛細胞とを分離しているところ。



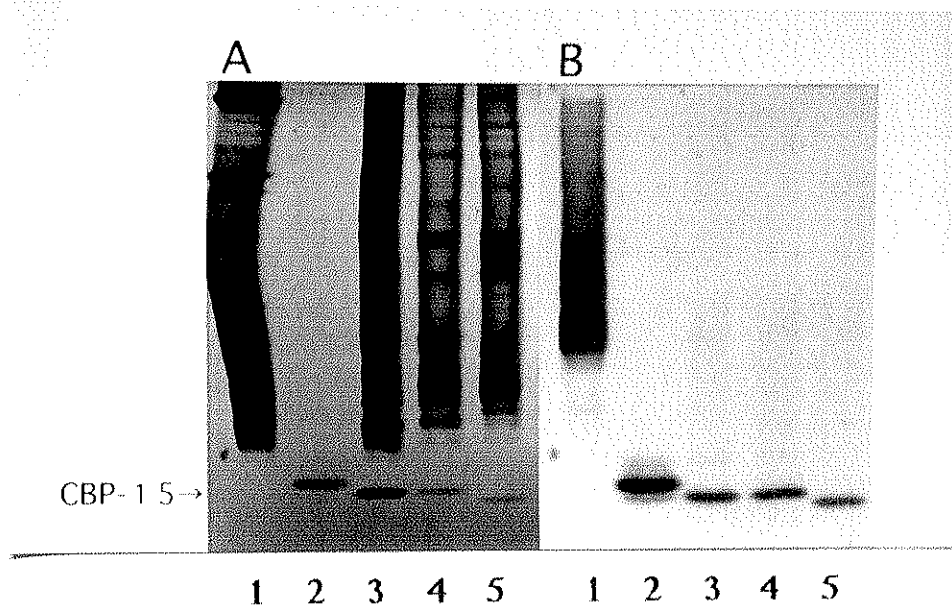


図3 モルモット、ラットおよびマウスのコルチ器を用いた等電点電気泳動

A 銀染色像

1 : PI、2 : r-OM 0.2  $\mu$ g、3、4、5 : モルモット、ラットおよびマウスのコルチ器各15  $\mu$ gである。

B Western Blot

lane はAと共通で、一次抗体に抗ラットOMモノクローナル抗体1A10を用いた。

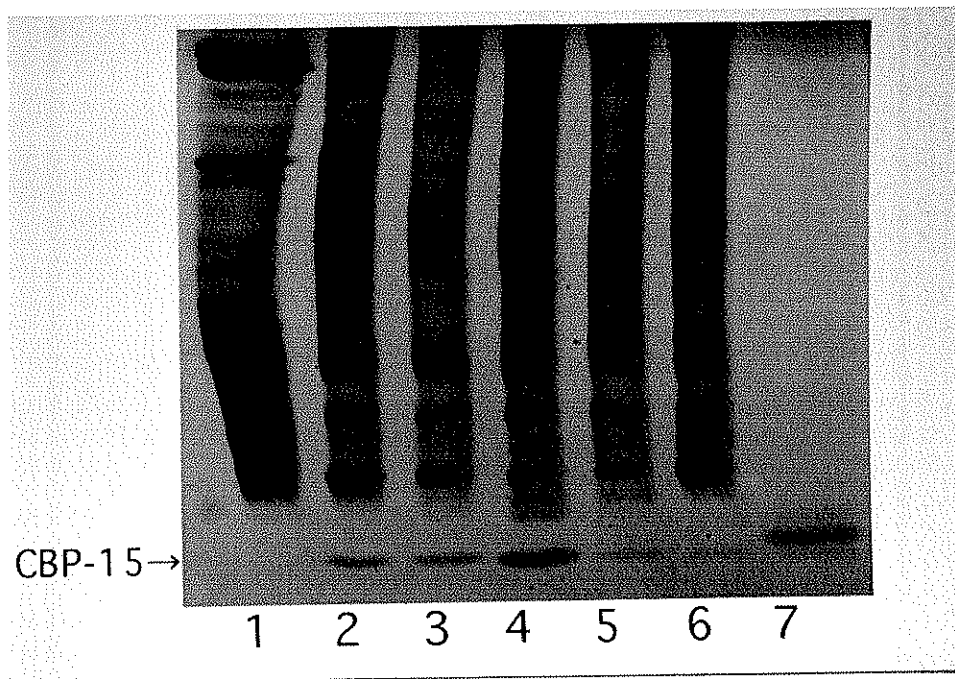


図4 モルモットのコルチ器におけるCBP-15の局在

1 : PI、2 : 全コルチ器15  $\mu$ g、3 : Outer Layer (外有毛細胞および支持細胞) 15  $\mu$ g、4 : 外有毛細胞15  $\mu$ g、5 : 内有毛細胞15  $\mu$ g、6 : 支持細胞15  $\mu$ g、7 : r-OM 0.8  $\mu$ g。

モルモットのコルチ器を dissection し、等電点電気泳動後に銀染色を行った。外有毛細胞で特に強く反応が認められた。

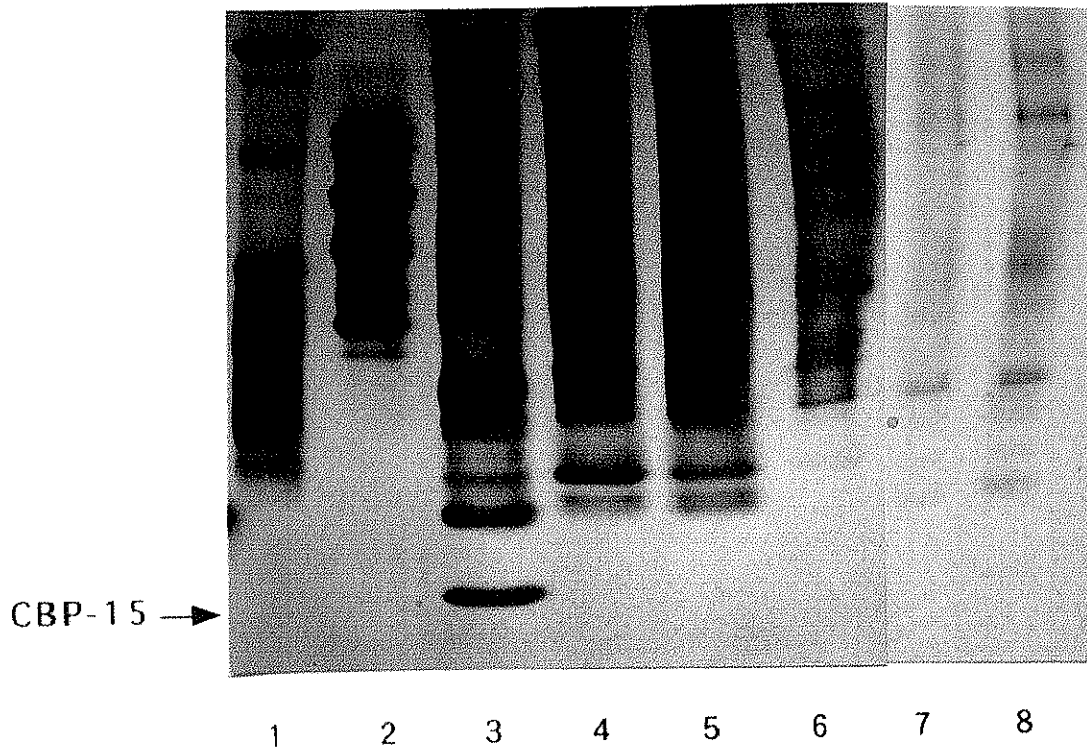


図5 モルモットの内耳におけるCBP-15の分布

1 : PI、2 :  $\alpha$  type-parvalbumin 3  $\mu$ g、3 : コルチ器16  $\mu$ g、4 : ラセン靭帯  
 および血管条53  $\mu$ g、5 : ラセン板縁48  $\mu$ g、6 : ラセン神経節および蝸牛神経  
 67  $\mu$ g、7 : 球形囊17  $\mu$ g、8 : 卵形囊23  $\mu$ g。

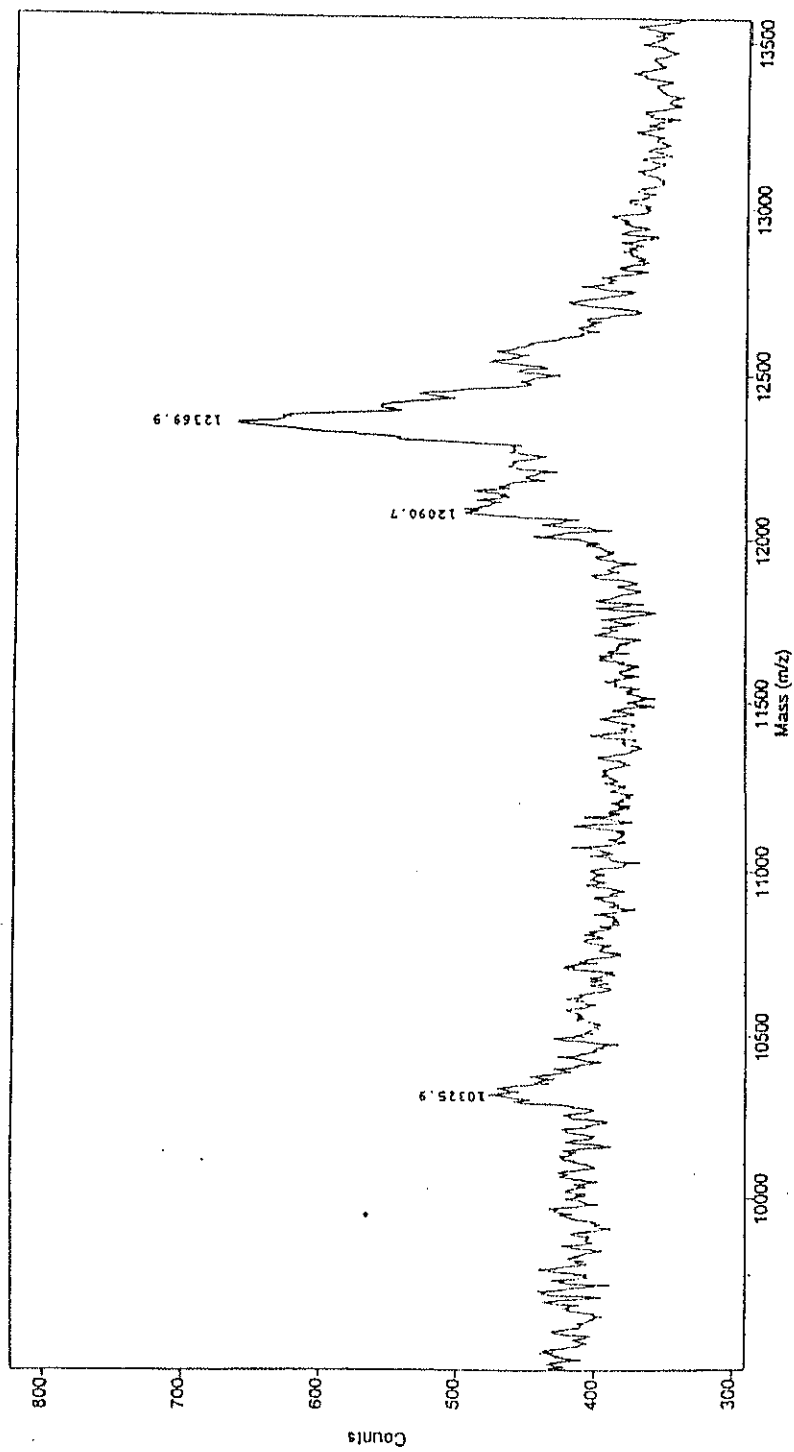


図6 Mass Spectrometry

横軸が分子量を示している。12,090と12,370付近にピークが認められる。